平成 24 年度版『中学生の国語』学習指導資料

確かめよう／学びを広げる

活用ハンドブック

三省堂

― 目次 ―

「確かめ」「広げる」学びのために …… 1

「確かめよう」活用のアイデア

1 場面の展開を読み取るには＜１年／読むこと・文学＞ …… 2

2 中心となる内容を捉えるには＜１年／読むこと・説明＞ …… 4

3 わかりやすく話すには＜１年／話すこと・聞くこと＞ …… 6

4 書く材料を整理するには＜１年／書くこと＞ …… 8

「学びを広げる」活用のアイデア

1「玄関扉」＜１年／言語文化編・読書の森へ＞ …… 10

2 平家物語紀行＜２年／言語文化編・言葉の図鑑＞ …… 11

3 歳時記＜３年／言語文化編・言葉の図鑑＞ …… 12

4 説明の具体化＜１年／情報活用編・とく＞ …… 13

5 評価の意義＜３年／情報活用編・ふりかえる＞ …… 14

6 古典の冒頭二十五選＜２年／事典編・折込＞ …… 15

発展編 豆本を作る＜１年／言語文化編・言葉の図鑑＞ …… 16

「確かめ」「広げる」学びのために

平成 24 年度版『中学生の国語』は，各学年とも本冊と別冊・資料編『学びを広げる』の２分冊から成っています。また，その内容は，単元ごとに教材を配列した本編〈必修学習〉と，領域ごとの基礎的・基本的な能力の定着を図る「確かめよう」〈補完的学習〉，国語科の学習に加えて他教科の学習や日常の言語生活にも役立つ内容を盛り込んだ別冊・資料編『学びを広げる』の３部構成になっています。

本資料『確かめよう／学びを広げる　活用ハンドブック』は，これら３つのパートを有機的に結びつけるための授業アイデア集です。先生方が実際に『中学生の国語』を使用して指導することを考えて，以下のような内容となっています。

○「確かめよう」に配置されている言語活動のスキルは，本編の教材の学習の際に必要となる，そして生徒たちにぜひとも身につけてもらいたい言語の能力です。
この『ハンドブック』では，教材の学習活動の全体を示したうえで，学習活動のどの段階で，どのような言語能力を活用すると有効であるかを示しました。

○『学びを広げる』に配置されている資料は，国語の学習だけでなく，他教科の学習や日常の言語生活にも役立つものです。
この『ハンドブック』では，まず資料の特色と一般的な活用方法とを解説したうえで，本編の教材の学習活動を行う中で活用する場合に，どのように活用すると有効であるかを示しました。

なお，本編の教材と「確かめよう」『学びを広げる』の教材とのつながりについては，『中学生の国語』本冊巻頭（P7 ～ P11）に全体の構成と教材の関連を示した図表が掲げてあります（もちろん，これは例示ですから，それ以外にも教材どうしの関連のさせ方は考えられます。本資料『確かめよう／学びを広げる　活用ハンドブック』では，別冊・資料編『学びを広げる』の活用例の中で，「発展編」として，教科書で示されていない結びつけ方をしたものも取りあげています）。

また，『中学生の国語』本冊には，本編の目次（P2 ～ P4）と，「確かめよう」の目次（P5）に加え，別冊・資料編『学びを広げる』の目次（P6）を掲載して，全体の目次が見られるようにもなっています。

本資料を手がかりに，先生方がご自身のアイデアをいかし，生徒たちの個性や習熟度に応じた，より有効な学習指導の開発を行ってくだされば幸いです。

「確かめよう」
活用のアイデア
1

場面の展開を読み取るには

＜1年 ／ 282ページ＞

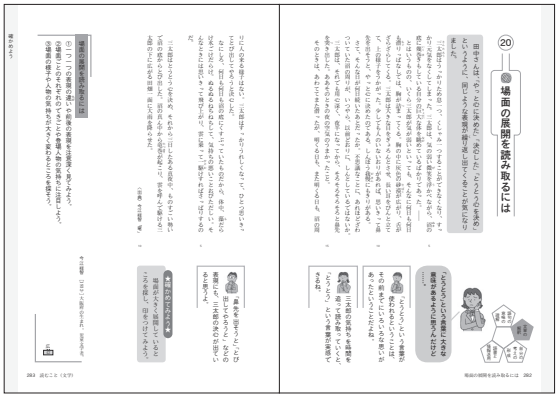
――「空中ブランコ乗りのキキ」（「理解力1」単元）に活用する

❑「確かめよう」を使った授業展開例❑

	学習目標	学習活動	具体的な指導内容 指導上の留意点
1時間め	あらすじを確認し，自分なりの感想をもつ。	1　全文を通読し，あらすじを確認する。	時間の推移に注目させ，場面の移り変わりを確認させる。
		2　漢字や意味のわからない語句を確認する。	プリントを用意し，宿題にしてもよい。
		3　初発の感想・疑問を話し合う。	班で感想を話し合わせる
	登場人物のイメージをつかむ。	4　登場人物の特徴を表にまとめる。	人物のセリフや人物を形容している比喩表現に注目させる
2・3時間め	場面ごとにキキの気持ちを捉える。	**5　場面の展開を読み取る方法を知る。**	**P282「確かめよう 20」を参考に，読み取らせる。**
		6　キキのセリフや態度の変化を，他の登場人物とのかかわりを明確にして展開ごとにまとめる。	「四回宙返り」をキーワードに，人物のセリフに着目させ，他の登場人物がキキの気持ちの変化にどう関わっているかに気づかせる。
	キキの気持ちが最も大きく変化したところを探す。	7　キキが「四回宙返り」を決意したことがわかる表現を見つける。	セリフだけでなく，キキの小さな様子の変化に着目させる。
4時間め	場面を一つ選んで音読し，感想を交流する。	8　グループごとに場面を選び，練習する。	前時までに読み取った気持ちをもとに，セリフの強弱などを工夫させる。
		9　発表し，感想を述べあう。	お互い感想を交流させるが，批判ではなく，良かった点について感想をのべるよう意識させる。
5時間め	「白い大きな鳥」が象徴しているものを考える。	10　これまでの学習をもとに，理由をあげて自分の考えを書き，発表する。	各場面で「白い鳥」を連想させる表現に着目させる。
	学習を振り返る。	11　発表しあった意見を参考にして，学習を振り返る。	学習を振り返り，登場人物の気持ちの変化と場面の展開の関係を確認させる。

○授業での活用例○

	活用の目的	課題解決のポイント	具体の学習活動
2・3時間め	「場面の展開を読み取るには」を読み，文章のどこに着目すべきか理解する。	1　一つ一つの表現の違いや前後の表現を注意深く見る。	物語の展開にしたがって，キキのセリフや態度が変化することに着目させる。
		2　場面ごとのそれぞれのできごとや登場人物の気持ちに注目する。	時間や場所，できごとの変化や「四回宙返り」に対するキキの気持ちの変化だけでなく，他の登場人物のセリフにも着目させる。
		3　場面の様子や人物の気持ちが大きく変わるところを探す。	キキのセリフや態度の変化を，他の登場人物とのかかわりのまとめを見直し，最もキキの気持ちが変化するところを見つけさせる。



「確かめよう」
活用のアイデア
2

中心となる内容を捉えるには

＜1年 ／ 270ページ＞

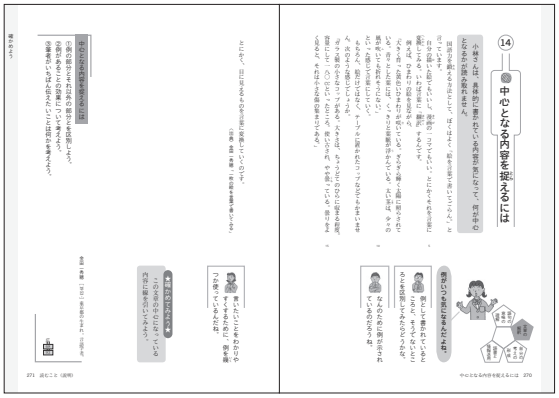
――「ユニバーサルな心を目指して」（「理解力1」単元）に活用する

❑「確かめよう」を使った授業展開例❑

	学習目標	学習活動	具体的な指導内容 指導上の留意点
1時間め	文章の中心となる内容を捉える方法を知る。	**1　別の説明文で，文章の中心となる内容を捉える練習をする。**	**P270「確かめよう 14」を活用する。**
2時間め	本文を通読する。	2　意味調べをする。	プリントを用意し，宿題にしてもよい。
	段落と段落との関係を考える。	3　形式段落ごとに「例の部分」と「それ以外の部分」とを区別する。	「例えば」など，各段落の初めにある接続する言葉に着目させ，文章の展開を確かめさせる。
		4　問題提起の部分と結論部分を考える。	説明文では，初めの方に問題が提起されている部分，最後の方にその結論部分があることが多いことを示しておく。
3時間め	第1～3段落を読み，「ユニバーサルデザイン」「バリアフリー」について，現在の生活での問題点を読み取る。	5　第1段落から「ユニバーサルデザイン」と「バリアフリー」の違いを表にする。	「ユニバーサルデザイン」と「バリアフリー」を，筆者が定義している箇所を抜き出させる。
		6　「エレベーター」の例は読み手にどういうことを伝えるための例かを考えてまとめる。	まとめる前に，「例の部分」と「それ以外の部分」とを区別させる。
4時間め	第4～12段落を読み，筆者の考える「ユニバーサルデザイン」を読み取る。	7　「エレベーター」や「点字ブロック」の例は，読み手に何を伝えるためのものかを考える。	第1時に分けた「例の部分」と「それ以外の部分」を確認し，どんな例があげられているか指摘させる。
		8　それぞれの例を「穴」と「発想」という言葉を手がかりにまとめる。	「穴」と「発想」という言葉の意味を確認させ，一つ一つの例と対応させる。
5時間め	筆者の考えを読み取ってまとめる。	9　「美しいカタカナ言葉」「美しい手応えのある社会哲学」などの言葉をもとに，筆者の考えをまとめる。	これまでの学習を振り返り，「美しいカタカナ言葉」と「穴」，「美しい手応えのある社会哲学」と「発想」との関係を確かめさせる。
	学習を振り返り，自分の考えをまとめる。	10　筆者の考えを参考に，これからの社会の目指す方向について，自分の考えを書く。	自分の生活を振り返り「穴」の例をあげさせることで，例の効果に気づかせる。

○授業での活用例○

	活用の目的	課題解決のポイント	具体の学習活動
1時間め	説明文を読み解くために，文章の中心となる内容を捉える方法を知る。	1　説明文では，中心となる内容を捉えるために，「例の部分」と「それ以外の部分」とを区別する必要があることを知る。	270ページの文章を読み，段落ごとに「例の部分」と「それ以外の部分」とを区別させる。
		2　例があることの効果について考える。	例の部分を除いて読み聞かせ，元の文章と比べさせる。
		3　筆者がいちばん伝えたいことは何かを考えてまとめる。	「例以外の部分」で何度も書かれている意見に着目させ，文章中の言葉を用いてまとめさせる。



「確かめよう」
活用のアイデア
3

わかりやすく話すには

＜1年 ／ 246ページ＞

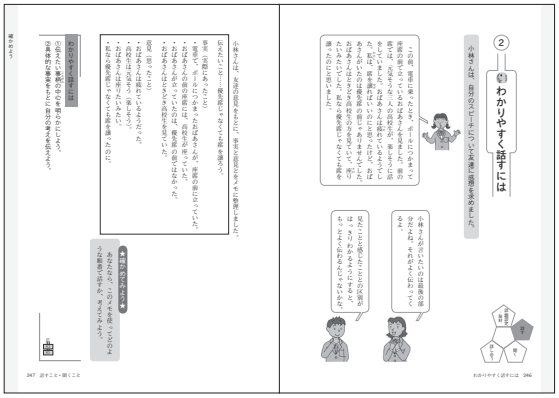
――「スピーチをしよう」（「表現力1」単元）に活用する

❑「確かめよう」を使った授業展開例❑

	学習目標	学習活動	具体的な指導内容 指導上の留意点
1時間め	自分の伝えたいこと・友達に知ってほしいと思うことを考え，スピーチの話題を決める。	1　スピーチ学習の意義を理解し，自分が伝えたいことは何かを考え，話す内容を決める。	自分の思いや考え，知ってほしいことを伝えるための話題を決める。基本は「私のお気に入り」「私の好きなもの」とする。話題が決めにくいときは，P244「話題を決めるには」を参照させる。
2時間め	話題にそって材料を集める。	2　取りあげた話題について材料を集める。	材料をまとめる際には，P36「言葉の地図」を参考にさせる。集めた材料を取捨選択してまとめることに注意させる。
	スピーチの組み立てを考え，スピーチメモをつくる。	3　話す内容に即して，話の組み立て方や話し方の工夫を考え，スピーチメモをつくる。	スピーチメモには，内容だけでなく，注意する点や目標も書かせる。
		4　伝えたい事柄の中心と部分・事実と意見などについて工夫した表現になるようスピーチを工夫する。	**P246「確かめよう2」を参考にして，よりよいスピーチを作る工夫をさせる。**
3時間め	スピーチの練習を行う。	5　スピーチメモに基づいて，グループごとに練習する。	お互いにアドバイスをし合わせるが，批判ではなく，前向きなアドバイスを意識させる。
4・5時間め	スピーチをする。	6　友達からのアドバイスを生かしてスピーチをする。	自分の立てた「スピーチの目標」に即してスピーチをさせる。その際，P39「話すときに気をつけること」を参考にさせる。
		7　スピーチが終わるたびに「聞き取りカード」に記入する。	「聞き取りカード」に，一人一人のスピーチについて気づいた点やもっと聞きたい点などを書かせる。
	学習を振り返る。	8　もらったカードなどを参考にして学習を振り返る。	P39「振り返る」に示された観点から，学習を振り返らせる。

○授業での活用例○

	活用の目的	課題解決のポイント	具体の学習活動
2時間め	スピーチの内容を事実と意見・中心的な部分と付加的な部分に分け，内容を意識しながら効果的に表現する。	1　スピーチで伝えたい事柄の中心を明らかにさせる。 2　具体的な事実をもとに自分の考えを伝えることを意識させる。	246ページのスピーチ例を読ませて，スピーチの内容を意見と事実・中心と部分について分類させる。
			247ページの「確かめてみよう」を読んで，スピーチ原稿の構成について考えさせる。
		3　ここまでの学習をもとに，自分のスピーチをわかりやすいものにするための工夫をさせる。	スピーチを分類し，それぞれの部分について話す速度や音量・言葉の調子や間のとり方・語句の選択・言葉遣い等に留意して，わかりやすく話す工夫を考えさせる（250ページの「確かめよう4」を参照させてもよい）。



「確かめよう」
活用のアイデア
4

書く材料を整理するには

＜1年 ／ 258ページ＞

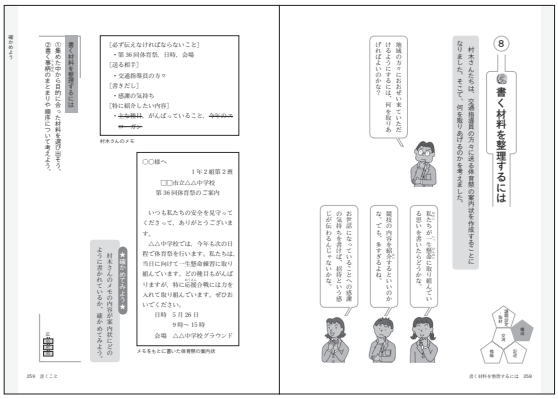
――「一枚レポートを書こう」（「表現力1」単元）に活用する

❑「確かめよう」を使った授業展開例❑

	学習目標	学習活動	具体的な指導内容 指導上の留意点
1時間め	身のまわりにある物事や，社会で起きているできごとをみつめ，疑問点や問題点を抱く。	1　レポートすることの意義を理解し，レポート作成学習の意義を理解する。 さまざまな視点から研究を組み立てることができることに気づかせる。	身のまわりにあることや，社会で起こっていることに疑問や問題意識をもてるようにさせる（P41「◆調査・研究のいろいろな視点」を参考に，自分のテーマをどのような視点から分析できるかを考えさせる）。
2時間め	レポートの材料を集めて整理する。	3　図書館・パンフレットなどの資料を使ってレポートの材料を集める。	P43「調べるときには」を参考に，さまざまな資料の特性や扱い方を学ばせる。
3時間め	集めた材料を整理する。	**4　集めた材料を整理する。**	**P258「確かめよう8」を使って，レポート内容の中心は何かを考えつつ，集めた材料がどのように役立つかを考え，構成を整理させる。**
4時間め	整理した材料をカード等にまとめ，構成を考えてレポートを書く。	5　集めた材料を使って，わかりやすく伝えるための構成を考えてレポートを書く。	材料の因果関係や時間の推移などについて考え，段落の役割を考えて文章の構成を考えるようにさせる。
5時間め	意見を交流する。	6　P44「レポートの表現方法」を参照し，文末表現，言葉遣い，引用部の明示，段落の連接関係を明示する言葉などに着目して，意見交換をする。	「評価シート」を利用して，一人一人のレポートについて，気づいた点や改善点などについて話し合わせる。
		7　友達からのアドバイスをいかして，よりよいレポートを作る。	具体的な意見を交換させ改善点を明確に理解してレポートを完成させる。
	学習を振り返る。	8　材料の分類整理や構成の工夫について考える。 自分と友達のレポートを比較して特徴を考える。	P44「振り返る」に示された観点から学習を振り返らせる。

○授業での活用例○

	活用の目的	課題解決のポイント	具体の学習活動
3時間め	レポートを作るために集めた材料を整理する。	1　集めた中から目的に合った材料を選ばせる。	自分のレポートの中心について考えさせ，目的に合った材料を選び出させる。 その際，効果的な材料の配置についても考えさせ，構成を考える準備とさせる。
		2　書く事柄のまとまりや順序について考えさせる。	259ページの案内状を分析させて，材料（村木さんのメモ）がレポート全体にどのように役立っているか（メモの内容を取捨選択したり，順序を工夫したりして書かれていること）に気づかせる



「学びを広げる」
活用のアイデア
1

「玄関扉」

＜1年 ／ 別冊・資料編 64 ページ＞

――「信頼をつなぐ」（「思考力 1」単元）に活用する

□活用のねらい□

説明文を読むということは，「体験・経験や調査・研究したこと，ある物事の成り立ちや構造・はたらき・価値などを，それをよく知らない人に伝える文章である。課題に対して答えるという構造に特質がある。」（1年『学びを広げる』105 ページ「学習用語事典」）を読み取ることである。

「信頼をつなぐ」も「玄関扉」も“例”のはたらきを比較することで，説明文における『例』の効果的な使い方を学ぶことができる。

説明文の学習課題としては，

1　どんなことを伝えるために，何を“例”に用いて説明しているかを読む。

2　文章の構成を考える。【まとまりごとに見出しをつける】

3　文章の内容を要約する。

などが考えられるが，「信頼をつなぐ」と「玄関扉」（別冊・資料編）とは比較して読むのにふさわしいといえる。

○学習活動○

❶教科書の手順にしたがって，「信頼をつなぐ」を読む。

❷文や文章について意見・感想の交流を行う。

❸学びを振り返って，「例がどのようなはたらきをしていたか」の交流を行う。

❹「玄関扉」を読み「例がどのようなはたらきをしていたか」をまとめ，「信頼をつなぐ」との比較を交流する。

★留意点★

1．「信頼をつなぐ」の学習を始めるにあたって，あらかじめ，「玄関扉」との比較読みを行うことを予告しておく。

2．「玄関扉」の学習では“例”がどのようなはたらきをしているのかを考えさせたい。

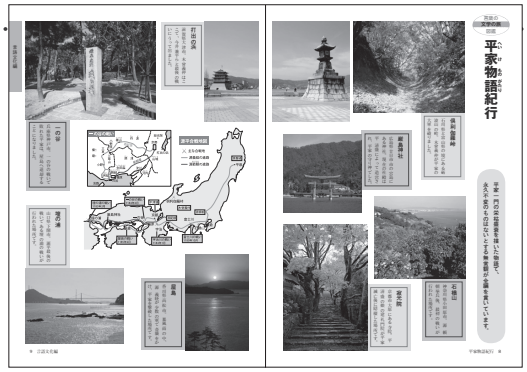
「学びを広げる」
活用のアイデア
2

平家物語紀行

＜２年 ／ 別冊・資料編８ページ＞

――「平家物語」（「想像力」単元）に活用する

□活用のねらい□



本編の「平家物語」は，「登場人物の生き方を考える」ことをねらいとし，「行動や心情」をまとめる活動が設定されている。そこで 172 ページの読解の前に「平家物語紀行」を活用し，「生き方」「行動や心情」を生徒が抽象的に理解しないような活動を工夫したい。

資料編の「平家物語紀行」は，作品の舞台となった場所の写真と簡単な解説，源平合戦地図から構成されている。これを参考に合戦地図を中心とした学習プリントを作成し，教科書 171 ページの内容と年表（社会科の教科書や資料集を参考にしてもよい）なども資料として活用させて，必要な情報を書き加える学習活動を行う。こうすることで，生徒に直実や敦盛の置かれていた状況や源氏と平家との違いなどをおさえさせ，教科書 175 ページの直実の「行動や心情」を想像する土台とさせる。

※プリントには，例えば次の内容などを書き加えさせる。【平清盛〈1181 年 3 月〉や木曽義仲〈1184 年 1 月〉の没年，石橋山〈1180 年 8 月〉や倶利伽羅峠〈1183 年 5 月〉などの戦いの年，宇治川の戦いの説明，福原遷都の説明，鵯越・平泉の説明，人物（例えば屋島の戦いの那須与一） など】

○学習活動○

❶学習プリント配布。教科書 171 ページを黙読する。

❷学習プリントに「平家物語紀行」で触れられている場所の説明を付け加える。次に，年表などの資料に基づき，時間（年や月）などの情報を記入する。

❸早めに終わった生徒は，「平家物語」冒頭を視写する。

★留意点★

1．何のために合戦地図を作成するかをきちんと説明する。

2．地図は県境がわかる地図にするとよい（「平家物語紀行」の説明には県名がある）。

3．必要に応じて，既に源氏は優勢であり敦盛を討っても討たなくても合戦の勝敗にはそれほど影響がないことや，平家の優雅さを示すエピソードなども紹介しておきたい。

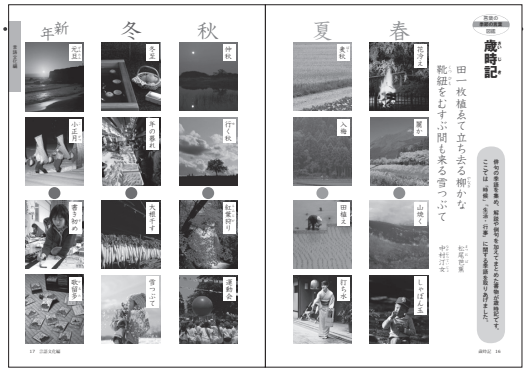
「学びを広げる」
活用のアイデア
3

歳時記

＜3年 ／ 別冊・資料編 16 ページ＞

――「俳句の世界」（「理解力」単元）に活用する

□活用のねらい□



資料編「歳時記」には，季節ごとの代表的な季語が美しい写真とともに掲載されている。季語と写真とをあわせて読むことで，季語が単に季節の風物を表すだけでなく，人々の生活や文化に根差したものであり，短い言葉の中に読む者のイメージをさまざまに喚起する効果をもつことも理解させることができる。

「歳時記」のページには，松尾芭蕉と中村汀女の俳句が掲載されている。この二句を取りあげ，それぞれの季語とそれらが示す季節とを確かめさせるとともに，その言葉が句全体の中で描いている情景を捉えさせる。「田植え」の写真には腰を曲げた人物が点々と苗を植えている姿が写し出されている。「田一枚」植える時間はどれほどか，植えている人物の様子や人数どのような人物で，何人いるのか。また，「雪つぶて」には雪玉をぶつけられた瞬間の男の子の写真が添えられている。雪玉を投げてきたのは誰なのか，どこから，幾つくらい飛んできたのか。こうした，季語から広がる情景を豊かに想像させたい。

季語の果たす役割を理解させ，俳句の表現を豊かに味わう体験をさせることで，「みんなで学ぶ」「学びを振り返る」の学習がより深く確かなものになると期待される。

○学習活動○

❶本編 86 ～ 87 ページの俳句を，解説を参考にしながら声に出して読む。

❷「学びの道しるべ」の「みんなで学ぶ」を行う前に，資料編「歳時記」の写真を参考にしながら松尾芭蕉と中村汀女の俳句に描かれている情景や心情・人物等について想像したことを交流する（想像したことを基にショートストーリーを書く活動も考えられる）。

★留意点★

1．「季語（季題）」という約束ごとが，俳句に豊かな表現力を与える役割を果たしていることを生徒たちに気づかせたい。

2．発展させた学習として，中学校の生活や行事の中からオリジナルの季語をつくり，「私たちの歳時記」を制作するような学習活動も考えられる。

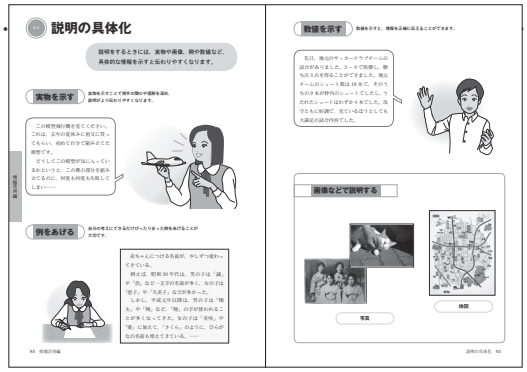
「学びを広げる」
活用のアイデア
4

説明の具体化

＜1年 ／ 別冊・資料編 93 ページ＞

――「ユニバーサルな心を目指して」（「理解力1」単元）に活用する

□活用のねらい□



「説明の具体化」は，物事を説明するときに，どのような具体的な情報を用いると，相手にわかりやすく伝えられるかを示したものである。これらの方法を理解しておくと，発信者として情報を伝達するときに役立つだけでなく，自分が受信者となって情報を受け取るときに文章の内容を正しく理解したり，あるいは批判的に内容を捉えたりする場合にも役立つと考えられる。

「説明の具体化」には，具体的に４つの例があげられている。「ユニバーサルな心を目指して」は，この中の「例をあげる」「画像などで説明する」を用いて説明した文章だと言える。どこにどのように例が用いられているか，その例はどのような役割をはたしているか，などについて考えさせることで，理解を深めさせたい。

この学習を通して，その後の学習においても，挿絵や写真を含めた文章の構造に生徒たちの目が向くようになることが期待できる。

○学習活動○

❶全体を一読する。

❷「学びの道しるべ」の「ひとりで学ぶ」を行う際に，別冊･資料編「説明の具体化」のページを使って，この教材では，どの例が，本文のどこに用いられているかを確かめさせる。具体的には，「写真は本文のどこと対応し，どのような役割を果たしているか」，「本文であげられた例は何を説明するために用いられているか」などを確認することになる。

❸発展的な読解として，具体例が筆者の意図を述べるものとして適切かどうかについて，考えさせることもできるだろう。

★留意点★

1．「ユニバーサルな心を目指して」の学習の中で，生徒たちに例を発見させることに重点を置きたい。そうすることで，知識が身につく。

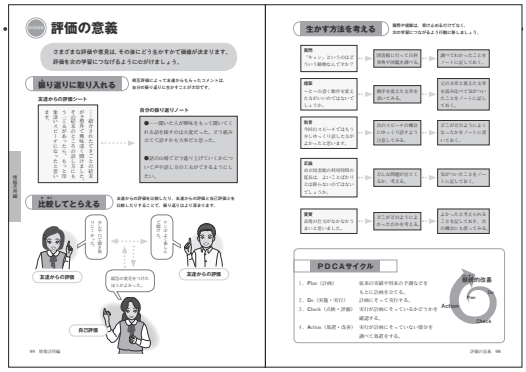
「学びを広げる」
活用のアイデア
5

評価の意義

＜3年 ／ 別冊・資料編 99 ページ＞

――「パブリックスピーチをしよう」（「表現力」単元）に活用する

□活用のねらい□



「評価の意義」は，自己評価や相互評価を振り返りに生かし，次の学習につなげるための方法を示したものである。学習過程に評価を取り入れる際に PDCA サイクルを意識させることで，評価が目的化してしまうことを避け，次の学習の質的向上や改善のために生かすことができる。

「生かす方法を考える」の項には他の学習者からの評価をその内容によって五種類に分けて例示し，それらを生かすための具体的な手立てや考え方を示している。こうした「Check（点検・評価）」を「Action（処置・改善）」に結びつけるための視点や方法を理解させることは，どのような評価が有用なのかを理解させることと同じであり，自己評価や相互評価の質を高めることにもつながる。

○学習活動○

❶教科書の手順にしたがってパブリックスピーチに取り組み，話し手・聞き手の役割を入れかえてスピーチをする際に相互評価を行う。具体的には 31 ページ「よりよいスピーチのために」に示された 7 項目を参考にしながらスピーチを聞き，評価のコメントを書く。

❷自分のスピーチに対する評価が集まったら，資料編「評価の意義」を参考に，それぞれのコメントを比較したり分類したりしながら次の学習への生かし方を考える。

❸教科書本編の「振り返る」に取り組み，パブリックスピーチの学習で身についたことや次の学習で改善したいことをまとめる。

★留意点★

1．友達からの評価を比較したり，分類したりすることができるように，相互評価のコメントは付箋やカードに記入させる。

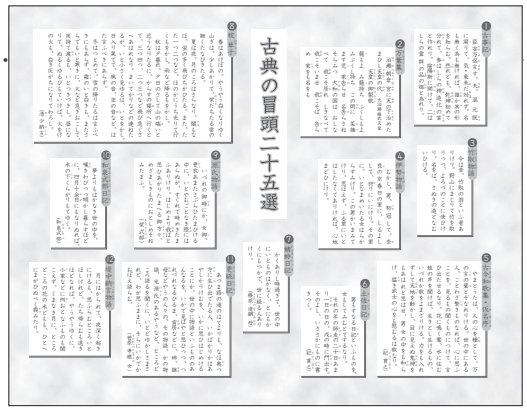
2．「賞賛」のような肯定的評価も，受け止めるだけではなく，「提案」や「助言」などと同様に次の学習活動に生かすことができる点に留意させる。

「学びを広げる」
活用のアイデア
6

古典の冒頭二十五選

＜２年 ／ 別冊・資料編折込＞

――「枕草子・徒然草」（「伝統的な言語文化」単元）に活用する



□活用のねらい□

「古典」の学習は小学校段階から行われ，中学校入学後も１年生でさまざまな古典作品に触れている。２年生ではさらに多くの作品に触れさせるようにしたい。

本編「枕草子・徒然草」では，筆者の思いや古典世界と現代との比較を行ったあと，別冊・資料編『学びを広げる』折込の「古典の冒頭二十五選」を楽しみながら学習させ，古典の世界を深めさせていきたい。

○学習活動○

❶学習目標「筆者が人間や自然についてどう思っていたのか，現代の私たちと同じ点や，違っている点」を意識しながら音読する。

❷各作品毎に作品について思ったこと，感じたことをメモし交流する。

❸以下は【A】【B】の選択とする

【A】……生徒が先生

別冊・資料編『学びを広げる』折込の「古典の冒頭二十五選」を各生徒に割り当て，各々音読させ，学級全員で続け読みを行う。また，割り当てられた生徒は作品の概略，作者について等簡単に説明する。

【B】……音読コンテスト

本編「枕草子・徒然草」と事典編（折込）の「古典の冒頭二十五選」また，既習の古典作品を加え，『音読コンテスト』を行う。評価者としてはペア（評価者は生徒），班（評価者は生徒），授業者，学年教員，小学校の先生，学生ボランティア，保護者・地域の方など，さまざまな評価者が考えられる。

★留意点★

1．「枕草子・徒然草」では学習目標を確実に学習させる。

2．古典の学習後準備期間を設けてから❸の【A】【B】を行うようにする。

「学びを広げる」
活用のアイデア
発展編

豆本を作る

＜1年 ／ 別冊・資料編 14 ページ＞

――「未来を見つめる」（「言語感覚」単元）に活用する

□活用のねらい□

「豆本を作る」は，自分の書いた文章や絵などを使って，自分だけのオリジナルな本を作る活動である。

学習上のメリットとしては，

1　活動それ自体が楽しく，生徒各自の個性・創造性が発揮でき，達成感が得られる

2　できあがった豆本を友だちと交換して読み合い，そのことによって，互いの考え・感想を話し合う場を作ることができる

3　学習の成果としての豆本を後々まで残して，他の機会に活用することができる

などが考えられるが，特に1・2の点を考えると，「豆本を作る」は「未来を見つめる」に活用するのにふさわしいといえる。

○学習活動○

❶教科書の手順にしたがって，下書きを交流する。

❷文や文章について意見・感想の交流を行い，書く内容が固まったら豆本を作る活動を行う。

❸豆本を読み合って1年間を振り返り，未来について話し合う活動を行う。

★留意点★

1.「未来を見つめる」の学習を始めるにあたって，あらかじめ，「豆本を作る」を活用して各自で本を作り，読み合う活動をすることを予告しておく。

2.「豆本を作る」にあたっては，作り方を理解したうえで，各自に紙の大きさや表紙，目次，奥付などを工夫させたい。特に紙の大きさは，項目や内容ごとの分量との関係で考えさせたい。

平成 24 年度版『中学生の国語』学習指導資料

確かめよう／学びを広げる　活用ハンドブック

発行日　2011 年 5 月 30 日
発行者　株式会社 三省堂　代表者 北口克彦
発行所　株式会社 三省堂

本　　社：〒 101-8371 東京都千代田区三崎町 2-22-14　電話 03-3230-9411（編集）・9551（営業）
大 阪 支 社：〒 530-0002 大阪市北区曽根崎新地 2-5-3　電話 06-6341-2177
名古屋支社：〒 460-0008 名古屋市中区栄 3-25-43 瑞穂ビル 4F　電話 052-252-9211・9212
九 州 支 社：〒 810-0012 福岡市中央区白金 1-3-1　電話 092-531-1531・1532
札幌営業所：〒 060-0042 札幌市中央区大通西 15-2-1 ラスコム 15 ビル 3F　電話 011-616-8722

24 年度版教科書 web ガイダンス　http://tb.sanseido.co.jp/24